

むつ市地域おこし協力隊活動状況報告書

むつ市長 山本 知也 殿

隊員氏名 大崎 祐暢

次のとおり活動したことを報告します。

【活動報告月：2023年4月分】

1. 実施した活動の概要・状況

4月となり、地域おこし協力隊が4人体制となった。継続してきた、川内、脇野沢の漁師のお手伝いは、どちらも養殖ホタテの出荷作業をしている。脇野沢では桜の開花に合わせて、庁舎前の桜のライトアップをしていたり、脇野沢小学校のミョウガづくりのお手伝いの要請準備や夢の平成号のガイド要請準備など、何かと準備するものが多く、1年の始まりであることを実感する1ヶ月となった。

（主な活動）

◇4月3日（月） 脇野沢ホタテ耳づくり体験

脇野沢ではホタテの稚貝を洗浄してから、小屋にもっていき、耳づくりの準備をする。朝3時に起きて脇野沢へ向かい、4時半出港の船と一緒に乗る。海の中にホタテのカゴ（パールネット）が吊るしてあるポイントで、カゴを縄から解いて回収し、船に積み込んで港に戻る。港ではカゴから出した稚貝を洗浄する。その後、少し離れたところにある小屋へ持っていき、耳づくりをするために貝の耳と呼ばれる部分（貝の開かない三角の部分）に小さな穴をあけ、インシュロックのようなものを通す。耳づくりの縄に通し終えたら、再度船に乗り、ポイントに向かい、結びつける。

朝3時に起きて4時半から、お昼を挟んで、15時頃まで作業を続けていた。途中、睡魔に襲われたが、耳づくりの一連の作業の流れを体験することができた。ホタテの耳に穴をあけるドリルも、家庭によって違うことを知ることができた。脇野沢では、ホタテの入れ替えと成貝の出荷、耳づくりを体験した。今年度は戦力になれるよう努めていきたい。



◇4月6日（木） 川内地区松川でのホタテの出荷作業の体験

スノーライトフェスでお世話になった漁師さんの元で、ホタテの出荷作業を体験してきた。3月～ホタテの成貝を出荷し、出荷がある程度終わったら、養殖かごの入れ替え作業を行っている。

同時期に脇野沢では稚貝の耳づくり作業をしており、かごの結び方は大体同じであることがわかった。

この体験をして、美味しいホタテを出荷するためにしている漁師さんのちょっとした工夫を見ることができ

た。デリケートなホタテの扱いに、コンクリートの上にマットを敷いて、なるべくホタテに衝撃を与えない工夫や、カゴから移し替えるときに傷ものをはじいたり、小さな努力の積み重なりで、美味しいホタテができているんだなと感じることができた。

今後も脇野沢だけでなく、川内の漁もお手伝いして、漁師の努力や漁の風景を発信出来たら良いなと考える。



◇4月22日(土) 川内 素魚漁見学

川内川で行われている「素魚漁」を見学してきた。素魚は今の時期になると産卵のために海から川に入ってくる。寿命は1年で、産卵後、メスは死に、オスはふ化を見届けて死ぬ。

川内川では四手網と呼ばれる網を使って、群れが入ってきたらタイミングを合わせて網を上を上げて、獲る。素魚の群れが網の方に来るように、ホタテの貝殻を投げて誘導していた。海の干満の影響やなみの影響を受ける河口付近で漁をしているため、だいたい5分おきに流れが変わる。

この魚を見て、とても原始的で面白いなと思った。話によると、川内だけでなく青森県内のいろいろなところでやっているとのことだった。また、素魚の踊り食いを初めて経験した。川内で古くから行われている漁であり、文化であると思う。漁の仕方や素魚という魚のことをもっと多くの人に発信出来たらなと思った。



2. 翌月の活動予定

5月は脇野沢において、イルカのガイドや、ヒラメの水揚げなどイベント盛りだくさんの月となる。脇野沢小中学校とも

- 5月 6日 ガサガサ探検隊 (かわうち・まりん・びーち)
- 5月 7日 牛の首農村公園清掃活動
- 5月 9日 脇野沢小学校ミョウガづくり手伝い (~10日)
- 5月18日 下北ジオパーク臨時総会
- 5月20日 脇野沢小中学校 合同体育祭